

Heimat

ハイマート

ぐんま日独協会 会報 65 号

2025 年 3 月 31 日

発行者 鈴木克彬

発行所 ぐんま日独協会

〒371-0105

群馬県前橋市富士見町石井4129-219

電話: 027-288-4297

E-mail: info@jdg-gunma.jp

ホームページ: jdg-gunma.jp/



ドイツ大使館訪問(2024年12月5日)

目次

1. 会長の言葉「ドイツ政局の苦悩・変化から学ぶ」	1
2. 追悼	
2-1. 元事務局次長杉本隆雄さんを偲んで	2
2-2. 遺作「西ドイツ・Hamburg 駐在体験記」(その 4)	3
2-3. 遺作「前橋市空襲の日」	6
3. 今年度後期行事報告	
3-1. 講演会「現代に生きるグリム童話」の開催について	10
3-2. ドイツ大使館訪問雑感	12
3-3. 新年懇親会	14
4. ChatGPT などの AI 利用の勧めと落とし穴(その 3)	15
5. 日本百名山独訳(連載 14)	19
6. 私の遠く過ぎ去った時代とドイツ(その 3)	24
7. 新入会員紹介	27
8. お知らせあれこれ	29
9. 編集後記	30

1. ドイツ政局の苦悩・変化から学ぶ

ぐんま日独協会 2025年3月 会長 鈴木克彬

2025年(令和7年)3月現在、ドイツ政局は世界情勢の変化から、メルケル元首相に主導された政策・遺産からの脱却、そして反対の方向に進んでいるように見えます。そのいくつかを纏めて見たいと思います。ご一読いただけたら幸いです。



A ギリシャの財政正常化問題

数年前のことです。EU加盟各国の中で国家財政のバランスが一番悪かったのはギリシャでした。生真面目なメルケル元首相は、機会あるごとに、ギリシャの財政正常化への改善・努力をギリシャ政府に促していました。しかしギリシャはいつの間にか中国の『一帯一路』政策の枠にはまり、ギリシャの港湾施設は殆んど中国の資本に抑えられてしまいました。

B 難民問題と右翼政党AFDの台頭

シリアをはじめとする中近東地区の難民に対し、メルケル元首相は人道問題に配慮し、率先して難民の受け入れ政策を行いました。その結果故か、ドイツ各都市に難民達の集落が存立し、治安不安定な地域が出来てしまいました。地域の一部には難民対象のお店が出来てしまい、難民達が集まり犯罪の温床になりつつありました。その現象は難民排斥をスローガンとした右翼的な『AFD』がドイツ第2政党として台頭した一因とも言われています。

C ロシアからの天然ガス供給ストップ問題

ドイツは地球温暖化対策の一環として、原子力発電から天然ガス発電への切り替えに重点をおき、北海にパイプラインを作り、ロシアからの供給を図りました。しかしロシアの一方的なパイプラインの供給ストップ。結局ドイツは周囲の国々から高価な電力供給を受けることになりました。

D 自動車産業フォルクスワーゲン社の不振。

メルケル元首相は日本訪問の数倍も中国を訪問し、車等の売り込みを図りました。しかしその間、中国は電気自動車の開発、量産化、技術革新等に力を注ぎ、今日ではヨーロッパ市場は中国車に圧倒されているそうです。その結果、『フォルクスワーゲン社の一万人以上の人員整理』という現象が生まれていると言われています。

E ドイツの公共施設の鉄道・道路・橋などは相当傷んでいる。

ドイツには日本の憲法に相当する『基本法』なるものがあり、日本の『赤字国債』なるものの発行は禁止されています。そのため『ドイツの公共施設・公共機関は相当傷んでいる』と言われています。これはメルケル元首相の問題ではありませんが、今後のドイツの重要な政治課題になると思われます。

F 新首相になられるであろう『メルツCDU党首』に期待

本年2月のドイツの総選挙の結果、新首相になられるメルツ氏に期待したいと思います。

2-1. 元事務局次長 杉本隆雄様を偲んで

ぐんま日独協会事務局長 平方秋夫

故杉本隆雄さんを偲び、謹んで哀悼の言葉を捧げます。

1月9日、杉本隆雄さんの突然の訃報に接し、前日の電話での会話が蘇ってまいります。元気そうな様子で、ちょっと検査で入院したことを告げられた時は、まさか翌日に訃報が届くとは想像もつきませんでした。今でもまだ亡くなられたことを信じる事が出来ません。

一昨年の12月24日、教会のミサにご一緒に参加しての帰り道、私たちの車から降りた杉本さんは自宅前で転倒し、救急車で日赤病院へ運ばれました。診察の結果、大腿骨骨折で手術の後、不屈の努力で苦しいリハビリをこなし、約半年後に自力で歩けるようになって退院されました。そして9月にはぐんま日独協会のドイツサロンにも参加できるまで回復されました。その後も順調に回復され大分楽に私たちの行事にも顔を出して下さるようになり、安心しておりました。

杉本さんは、ぐんま日独協会においては1989年の創立以来のメンバーで、まさに重鎮というに相応しい存在で、執行理事として私たち後輩を導いてくださいました。その表情は常に柔和で冷静沈着、そして丁寧な姿勢で誰に対しても優しく接して下さいました。

杉本さんと私は丁度10年違いで共に前橋高校そして早稲田大学を卒業、最近の二人の会話はもっぱらラグビーの話題でした。杉本さんはかつてのラグーマンで、学生ラグビーに詳しく、早明戦については特に思い入れが深かったように感じました。最近では昨年の12月に母校の前橋高校ラグビー部にラグビーボールを10個寄贈したことを嬉しそうに話してくださったことが昨日のように思い出されます。杉本さんの母校に対する愛情とラグビーにかける強い思いがそうさせたものと思います。

ドイツ・ハンブルクでの長い駐在生活を経験され、最近のぐんま日独協会の会報にも当時の様子を中心に3回の連載で「西ドイツ・ハンブルク駐在体験記」を書いてくださいました。1986年、東西分裂時代の西ドイツ・ハンブルクの商社現地法人で勤務を始めてから6年半に渡ったドイツ生活を私たちに克明に紹介してくれました。これは400字詰め原稿用紙にして約50枚の大作になり、杉本さんが当時のドイツでの生活を大切に記録し、資料を十分に調べて完成させた素晴らしい記録であったと考えております。

そして何と言っても杉本さんの自慢はご家族で、数年前に亡くなられた奥様の写真は常に手帳の間に挟んで持ち歩いていることでした。そしてたまに、子供さん方の立派になられた話をしてくれたこともあり、杉本さんがどんなにご家族のことを大切に思っていたかが良く分かる気が致しました。

最後になりましたが、杉本さんの生前のご活躍と私達に下さった温かい眼差しに深い感謝と尊敬を捧げ、お別れの言葉といたします。

どうぞ安らかに眠りください。



この遺作について



(愛用のドイツ鞆を手に、同僚と)

故杉本隆雄氏は 2023 年 7 月と 9 月の Zoom サロンで、ドイツ、Hamburg 駐在当時のことをお話になられ、その後、その際原稿を元に 3 回にわたってハイマート(62 号、63 号、64 号)に寄稿されました。今回の遺作の部分は、Hamburg 駐在時代の商社マンとしての活動を語る重要な部分であり、残念ながら未投稿のままだったところを編集したものです。お嬢様の渡辺和香様から杉本家にあったアルバムより、Hamburg から近隣諸国への出張時の写真の一部をご提供頂いて完成させたものです。

2-2. 西ドイツ Hamburg 駐在体験記(その4)

杉本隆雄

【ドイツ近隣諸国への出張】

欧州内には Hamburg の他、London, Düsseldorf, Milano 等に支店があり、それぞれ商品、地域、取引先等の関連で連携して活動していました。

Hamburg からは、北欧、東欧との仕事が多く、私自身は本社の機械部出身でしたが、機械の他、食品類や電子機器などの仕事も行いました。

当時、社会主義国には株式会社というものはなく、政府管理のいわゆる公団組織の事業体でした。しかつめらしい手続きでアポイントメントを取付け、複雑な手続きで VISA を取り訪問。オーストリア人有名デザイナー Thonet という人のデザインの椅子を Poland と Rumania の工場で作らせて日本の家具販売会社向けに輸出しました。社会主義体制とはおかしなもので、材料、人員、梱包材等生産手段の総てが管理されていて、彼らの計画以上に注文しても、もう今年の生産額は終了、「また来年」ということになる。彼らの返事は “Crop of this year finished. Next year please.” でした。

Hungary の Budapest では Donau 川に面したホテルに泊まりました。夕食の時、楽団は必ず



Johann Strauss の An der schönen blauen Donau を演奏してくれて、ここで聴けば本物だなどと同行の人たちと喜んだものでした。

Hungary 人の祖先はモンゴル人、フンヌ→フンガリー、序に言うとフィンランドまで出てくる。我々東洋人を見ると「生まれた時はお尻が青かったか」という質問を受けたことがある。彼らも所謂 Mongolian blue を背負っていたのかと思うが、未確認です。

(Chopin の演奏会が行われる Lazienkowski 公園、Warsaw, Poland)

1970年頃の話ですが、東欧圏は米ドルを欲しがっていました。入国する時に持って行った米ドルやドイツマルクと現地通貨に政府公定レートで交換します。レストランなどでは従業員は裏レートでドルを欲しがるので、こちらでも有利な支払いをしたものでした。

Warsaw 市内でもドルショップというものがあり、普通では買えない高級品がドル貨ならば買えるので一般市民でもドルが欲しかったのでしょう。こういう方法で国民が何らかの方法で入手するドルを始めとする外貨を吸い上げていたのだと思います。

Poland でしたが、ホテルで現地の人と打ち合わせをしていると、ほうきを持ったおばさんが、掃除をする振りをして近寄ってきます。現地の人の話では聞き耳を立てて諜報活動をしているのだとのことでした。

何度か Warsaw に行くうちに、特定のタクシー運転手と仲良くなりました。気心も知れて重宝に仕事をして貰いました。Poland は東欧圏の内でも最もスラブ的で、国民の気質なども一般的には余り明るい感じはしませんでした。彼の家の中も見せてもらいました。

きちんときれいに暮らしており、食生活なども貧しいという感じはしませんでした。ソーセージなども見ましたが、立派な製品を食べているようでした。当時のロシア管理下で外国人が私的にその国民の家に行くのは何か怖いような気もしました。

公的に生産工場なども訪問しました。運転手、公団の担当者と通訳、日本人二人が Dacia という Rumania でつくっている小さな乗用車（小型の Flat が原型）に正にすし詰め、それで片道3-4時間のドライブです。1970年代ですが、この国では他に大きな乗用車等無い時代でした。西欧圏との差をまざまざと見せつけられていました。

Poland では南部の Krakow の教会を訪ねました。Chopin のことまで触れたいところですが、音楽に関しては専門の方々もいらっしゃるのでお譲りします。

【フランスへの出張】

フランスからの機械輸出は私の守備範囲でした。Paris の外には Lyon や南部フランスの方面まで出張しました。永井荷風のフランス物語等も思い出されました。

Paris は冬が好いですね。Montmartre の Moulin-Rouge(赤い風車)の近くに日本人がよく行く牡蠣屋さんがいます。通常フランスでは牡蠣の注文は一人前を half dozen か、多い人は one dozen で注文します。氷の破片を敷き詰めたお盆に牡蠣を並べて、レモンやシャンパンと共に食べます。フランスは大西洋や地中海など海岸線が長いので、牡蠣の生産は可成り古くから行われていたとのこと。あちらの牡蠣は平べったいです。日本の牡蠣は深々と厚ぼったいですが、あちらの牡蠣は極端に言えば平貝に似ています。冬の最高の味覚であり風物詩だと思います。

フランス人はとてもグルメです。Paris 在住の取引先ですが、私が Paris に出張する計画を立てるとそれに合わせてわざわざ Normandie から牡蠣を取り寄せてくれた人もいました。グルメなフランス



人は他人にも美味しいものを食べさせて、そして自分もそれを喜ぶという、グルメ極まれりという気持ちの良い人のいる国だと思います。ワインの選択にも厳しい人がいました。注文したワインが自分の口に合わないと言ったと直ぐに次のワインに代えさせる、厳しい人を何人か体験しました。

【Notre-Dame, Paris の怪獣】



横光利一の小説『旅愁』に二人の青年と一人の女性が登場します。ある日彼らが Paris の Notre-Dame を訪問、屋上にある怪獣を見に行くことになります。

私はこの小説を読んで以来、いつか同じ体験をしてみたいと思っていました。ある時、1970年、日本からの来客と共に Paris での仕事があり、ちょっと空き時間が出来たので客人に提案したところ同意を得ました。ヨーロッパのゴシック式寺院の屋上にある怪獣はガーゴイルと呼ばれる雨どいの一種です。

雨水で壁を壊さぬよう怪獣の口から雨水を吐出させる工夫です。

ところが、Paris の Notre-Dame の場合は19世紀の改修の際、ガーゴイルではあるが雨樋機能を持たない単なる怪獣が市街を睥睨するように変更されてしまったと言われています。

寺院に入って左側に階段があります。387段の螺旋階段です。小説の中の3人はススを払いのけながら登ったと書いてありましたが、すでにススはありませんでした。ススが無いのが残念と思いました。やがて頂上、屋上には怪獣が沢山あり、写真を何枚も撮って年来の目的を達成しました。

“ドイツ駐在時代 1970年前後を振り返って”

(① Alster 湖畔, Hamburg ②景勝地 Ratzeburg ③Warsaw, Poland ④愛車のフォード ⑤スイス Grindelwald)

①



②



③



④



⑤



遺作 その2 について

「前橋市空襲の日」と題されたこの原稿は、惨憺たる前橋空襲の最中、市民の方々がどう生きられたのか、どう生き抜いてこられたのか、貴重な証言者の一人として故杉本隆雄氏が2022年に書かれたものです。ここに書かれた内容は、上州文化ラボの「市民が語る前橋空襲の記憶」と題されたDVDとYouTubeでも紹介されています。なお、この原稿の最後には、補足事項として、ドイツに深く関わった杉本氏のポツダム宣言についての思いが記されています。

2-3. 前橋市空襲の日



「空襲後の前橋」 出典 Wikipedia

令和4年(2022年)1月14日記

杉本隆雄

昭和9年(1934年)9月生

昭和16年4月 群馬師範学校

男子部付属国民学校入学

「臨時ニュースを申し上げます。臨時ニュースを申し上げます。大本営陸海軍部、12月8日午前6時発表。帝国陸海軍は、本8日未明、西太平洋においてアメリカ、イギリス軍と戦闘状態に入れり。帝国陸海軍は、本8日未明、西太平洋においてアメリカ、イギリス軍と戦闘状態に入れり」今朝、大本営陸海軍部からこのように発表されました。

私は昭和16年4月、国民学校に入学した一年生。

この年この日、12月8日(日曜日 大安)午前7時の臨時ニュース放送を家族とともに、何やら緊張感をもって聞いた。いよいよ日米開戦だと分かった。

緊張感ある毎日の通学となった。現住所岩神町から付属国民学校(通称、付属。場所は現在のベイシア文化ホール、通称県民会館)まで毎日徒歩で通学。戦争が進んでくると米軍機が前橋までも飛来するようになった。其の度に警戒警報のサイレンが鳴る、出来るだけ軒下伝いで帰宅、防空頭巾が離せない。記録によると前橋に初めて米軍機が来たのは昭和19年12月23日とのこと。

昭和20年になると米軍は、サイパン、マリアナ、グアム島を占拠。そこに飛行基地を建設、日本への橋頭保として、日本への飛来は容易となった。米軍機はB-17や高高度を飛ぶB-29だ。空の要塞と言われていた。ドローンドローンという不気味な爆音。日本の高射砲も応戦したが、弾丸は下の方で炸裂するばかりで、敵機には届かなかった。

何度も飛来した目的は何だったのか、空爆の日のための偵察飛行だったのだと思う。

やがて、前橋市にとって運命の日。敵機からはビラ作戦があった。「前橋、良い街、糸の街、8月5日は灰の街」といったような文言のビラがまかれたと言う。

我が家は居住家屋のほかに燃系工場が併設されていた。岩神の表通り、通称十五軒町、敷地は幅約20メートル、奥行き約50メートル位、前半分が住居と工場、裏の方は庭と桐畑になっていた。庭と桐畑の間の土地に防空壕が作られた。壕の大きさは幅3メートル、奥行き4メートル位。掘った壕の上に材木を渡して掘りだした土を盛り上げた。これは専ら小学5年生の私の仕事だった。道具はシャベル一本、今にして思えばよくぞあんな穴が掘れたものだ。父は燃系業で忙しかった。

空襲に備えて家財道具の避難作業も行った。箆笥やその他の家具家財などを大八車に積んで父が引っ張り、私が後押しして、父の生家、関根町の倉庫に運び保管してもらった。距離は約4キロ、今の国道17号線に並行する畦道、所謂旧道をよくぞ頑張ったなど今でもそう思う。前橋駅から渋川までチンチン電車の走っていた17号よりは近道だった。

8月5日、日曜日、爆撃の日

我が家には、両親と私と妹2人、それに母方の祖母と母の妹(叔母)合計7人が住んでいた。爆撃の日まで何回も空襲警報があり、その度に両親や子供たちは防空壕に退避することがあった。祖母と叔母は、二階から降りるのが面倒とのことで、いつも防空壕には入らなかったが、なんとその日は全員防空壕に退避していた。今日こそは爆撃という実感が伝わっていたのだろう。

その日は朝から晴天で風もなく、とても蒸し暑い日だった。21時に警戒警報、21時45分に空襲警報が鳴り響いた。22時半、前橋上空東からB-29飛来、92機、爆撃は約1時間半。焼夷弾、爆弾等合計724トンが投下されたそうだ。

22時半頃だったのか、防空壕の中で、スポッ、スポッという異様な音が聞こえた。父が防空壕の入り口の蓋を開けると、辺り一面昼のような明るさ、照明弾だ。それに庭や桐畑の中にはまるで蠟燭を灯したような炎が燃え上がっていた。あとで分かったことだが、それが焼夷弾の細切りの布に着いたゴム状の飛び火だったのだ。燃え易い木造家屋の日本向けに作った焼夷弾だ。

「だめだ、逃げよう」との父の言葉で、父と子供3人は裏の方に。今でいえば看護学院と二之沢病院との間にあった小川に浸かっていた。母と祖母、叔母は、どうやら我が家の前側の家々は火災を免れていたその前に居たらしい。我が家は木製の門と、檜の塀に囲まれていた。其の奥の二階家は全焼したが、母はそれを見ながら為す術もなく、長柄の付いた小さな散水用柄杓で門に水を掛けていた。お陰でその門は蒸し焼きの炭のごとき状態で昭和43年に改築するまで我が家の門であり続けた。

今の我が家の前庭の檜葉（ヒバ）の木二本は昔のままだ。樹齢は 100 年以上だが幹は未だに直径 15 センチ位で成長しないのが不思議だ。檜葉は火に強い木という意味だが、正に証明されている。

その晩は大雨が降った。大きな上昇気流が大量の雨になったのであろう。門の前で家族一同合流し、爆撃を免れた親戚宅に身を寄せて、休息した。

翌日、父母と私は無残な焼け跡に。初めて見た焼夷弾なるもの、直径 6-7 センチ位、長さ 40 センチ位、厚さ 2-3 ミリの鉄板、下の方に信管。不発だったものを見ると、筒の中にはゴム糊のような物と細く切り裂いたぼろ切れが入っていた。信管が破裂すると、その蓋に繋がったぼろ切れに火が付いて飛び出し、日本の木製家屋に付着して焼き払う目的のものと理解できた。約 1,000 平米の我が家の土地に合計 63 本の焼夷弾が落ちていた。

我が家近くの旧名向町に消防第 2 分団があり、そこに鐘楼、望楼がある。

我が家に近い岡村清造さん（大工業）が当日消防の当番で、望楼に上っていたのだが、後日話を伺うと、前橋で最初に火の手が上がったのは共愛学園であり、続いてその隣接する我が家の側が最初に燃え上がったそう。火災は、我が家の近くでは、飛び飛びだった。

我が家の通りから、広瀬川を渡った向町通りは原島屋あたりまで焼けなかった。

なぜ、共愛学園が最初だったのか。この学校は明治 19 年創立、ミッションスクールで、昭和の初め頃までは米国人教師が数人いた。我が家では母姉妹 4 人が共愛学園卒。近いので、米国人女性教師が我が家にも遊びに来たとの話を母から聞いていた。当時の校長は周再賜さん、台湾人だがアメリカで学習。そんな共愛学園を何故爆撃したのか。よく聞く話に、アメリカと縁の深い建物などは爆撃を外すと聞いていたのに。

その共愛学園の鉄筋コンクリートの建物は、内部の木材部分が燃え盛り、爆撃後 2 日間くらいは窓から大きな炎を噴き出していた。共愛に向かって左隅には平塚さんという布団屋さんがあり、その綿は何日も燻っていた。

市内繁華街が全滅の写真は象徴的だ。麻屋の廃墟は長い間残っていて、前橋空襲のモニュメントだった。

焼夷弾や爆弾のほか、機銃掃射も行われた。我が親族でも、幼い二人の少年が犠牲になった。

爆撃の 2-3 日後からだったか、父と私は焼け残った木材を集めて、庭に掘って建て小屋を作った。燃系工場のおじさんも手伝いに来てくれた。素人でもよくぞ掘って建て小屋ができたものと今でも感心する。窮すれば人間は器用になるものか。

昭和 13 年没の祖父が家具好きだったそうで、沢山の筆筥が燃えて、錠前等の金具が山のように積み上がった。あの活躍してくれた大八車は全部が木製、唯一の鉄製品は車輪の箍（タガ）、それだけが焼け残っていて、それを見た時は淋しくなった。

焼夷弾は回収して、その鉄板で薬缶や鍋を作ってくる商売が始まった。物不足の時代で、すぐさま目ざとい商売が始まったものだ。軍需工場で働いていた人たちが終戦で解雇され、故郷に戻ってきたので、そういう技術を持った人がいたのだと思う。我が家でも焼夷弾を輪切りにして作られた蠟燭立てを使っていた。

やがて 8 月 15 日、正午から天皇陛下の玉音放送が行われた。我が家の前の橋本さん宅で道路に向けてラジオを聞かせてくれた。放送は雑音交じりで、はっきり聞き取れなかったが、要するに日本は 7 月 26 日に突き付けられたポツダム宣言を 8 月 14 日に受諾して、無条件降伏をしたということだった。

補足事項:

後年、商社に勤務した私はドイツに駐在、或る日ポツダムにも行ってみた。首都ベルリンから車で約 30 分でポツダムに着く。会談の場所はチェチリエンホーフ宮殿で、ウイルヘルム II 世の居城だった。1945 年 7 月 17 日から 8 月 2 日まで米英ソ三国政府首脳が第二次世界大戦の終結に関して協議したとの事。城の内部は観覧できる。会談した部屋にはソファが置いてあり、それぞれトルーマン、スターリン、チャーチルが座ったと記されている。（病気や都合で代役も出たが）ここで日本の敗戦を協議したのかと思うと、何とも言えぬ複雑な気持ちになった。

第2次世界大戦中、日本はソ連と不可侵条約が締結されていた。故に、日本はポツダム宣言を提示されてから、ソ連を介して対戦国との調停を画策して、ソ連に特使まで派遣するつもりでいた。一方、ソ連は 1945 年2月のヤルタ会談で、トルーマンからドイツが敗戦したら、其の 3 か月後に対日参戦して欲しいとの要請を受けていた。ドイツは 5 月 8 日に敗戦。その 3 か月後の 8 月 9 日、ソ連は対日宣戦布告。日本はそのソ連に終戦調停を依頼するつもりでいた。諜報力の格差がなせるわざか。

*杉本氏は、ポツダム会談、ヤルタ会談について、ハイマート 63 号に詳しく寄稿されています。

(ご参考)

YouTube 「市民が語る前橋空襲の記憶」上州文化ラボ製作ビデオディスク(2022 年)より

https://www.youtube.com/watch?v=3_hBcGphwY&list=FLsa4czcdTcj6yldpVaXVcDg

杉本氏の出演部分は 30:05 からです。



3-1. 講演会「現代に生きるグリム童話」の開催について

並木 豊

文化の日の振替休日である11月4日(月)の午後2時から4時まで、前橋市中央公民館において、「現代に生きるグリム童話」との内容で講演会を開催しました。

講師には、とちぎ日独協会会長で、宇都宮大学名誉教授・日本グリム協会会長の橋本孝先生をお招きしました。

ちなみに、橋本先生は、2003 年にドイツ連邦共和国功労勲章功労十字章を、2021年にはドイツ連邦共和国功労勲章一等功労十字章並びに外務大臣表彰を受賞するなど、輝かしい受章歴を有しています。

なお、この講演会では、各出席者にA3判両面印刷2枚の詳細な年表が配布されました。

ちなみに、この年表は、グリム兄弟の生誕から死亡までを時系列で記載していますが、例えば「1803 年 ヴィルヘルム・グリム、マールブルク大学で法学を専攻し、サヴィニー教授に学ぶ。同じくバールフューサー通 35 に兄と住む。この通りは朝早くから夜遅くまで、多くの馬車が行き交い、うるさくさらに馬糞の匂いがたまらなかった。……」と記載されているように、物語風に書かれており、読んでいて面白く、記憶に残る内容になっています。講演では、橋本先生から以下のとおり興味深い話がありました。



1 グリム童話には教えてくれることがたくさんある。

グリム童話は、いろいろ読めば、現代に生きる我々にとっても参考となることがたくさんあるというのが橋本先生の講演の柱でした。

グリム童話を編集したグリム兄弟の父親フィリップ・ヴィルヘルム・グリム(Philipp Wilhelm Grimm)は高級裁判所の法律顧問を務めていましたが、子供には新しいものに絶えず関心を持つよう教育しました。このような指導がグリム兄弟を育み、童話集の内容に反映されています。

また、地域の集落では民話が住民の間で語り継がれており、貴重な文化を今後も継承させていくためにも地方を疲弊させないことが重要とのことでした。

2 シンデレラは「金」の靴を履いてお城へ行った。

シンデレラは、午前0時になった途端に魔法が解けるため焦って靴をお城の階段に落としてしましますが、グリム兄弟が童話を編集した最初の段階では、落としたのはガラスの靴ではなく、金の靴となっていた。また、シンデレラはかぼちゃの馬車に乗ってお城へ行ったという話の内容ですが、これも、最初は歩いてお城へ行ったとの内容で、我々が知っている童話の内容とは最初はだいぶ異なっていたということでした。



3 ヤーコブは長生きをした。

グリム童話は、兄のヤーコブ・グリム (Jacob Ludwig Carl Grimm, 1785 年-1863 年) と弟のヴィルヘルム・グリム (Wilhelm Carl Grimm, 1786 年-1859 年) が、ドイツを中心に民話を集めて編集し、出版したのですが、兄のヤーコブは78 歳まで生きました。これは、当時のドイツであっても長生きしたと思いますが、その秘訣はライ麦パンを常日頃から食べていたということです。

4 グリムは、フランス革命のスローガンのうち、「自由」だけが重要であると主張した。

ドイツでは、フランス革命のスローガンを、自由 (Freiheit)、喜び (Freude)、友愛 (Freunde)、平和 (Frieden) の四つの F で表すが、人間は生まれながらにして平等ではなく、四つのスローガンのうち重要なのは自由だけであるとの主張です。

5 日本の「遠野物語」にも怖い話がいっぱいある。

日本にも岩手県遠野地方に伝わる民話を柳田国男が集めて「遠野物語」が編集されており、グリム童話と同様、民話をもとに物語が作成されています。この遠野物語にも、グリム童話と同じく、怖い話がたくさん出てくる。

ちなみに、橋本先生ご自身も岩手県遠野市でグリム童話の講演を行ったことがあるとのことでした。

6 三猿はドイツにもある。

三猿 (見ざる、聞かざる、言わざる) は、日光東照宮の彫刻で有名ですが、ドイツにも三猿に関する諺があるとの説明でした。

三十年戦争は、1618 年から 1648 年の 30 年間、ヨーロッパ各地で起こった戦争ですが、主戦場はドイツでした。新教徒勢力とローマ・カトリック勢力との戦いで、新教徒勢力が勝利しましたが、この時代を生き延びるためには、「見ざる、聞かざる、言わざる」が重要だったということでした。

7 子供にもっと怖い話をしてもよい。

本講演会の出席者からの質問で、「子供に怖い内のグリム童話を読み聞かせた場合にどうしたらよいのか。」との質問に対する橋本先生の回答でした。グリム童話は、教育の書でもあるので、との先生の説明でした。ただし、読み聞かせる親の声は優しくあるべきであるとのことでした。



この赤ずきんちゃんは、ぐんま日独協会 30 周年記念誌の表紙にイラストレーターの細井玲子さんがデザインしてくださったもので、30 年間を越えた明るい未来の森に向かって、赤ずきんちゃんが歩み出している様子を描いています。

3-2. ドイツ大使館訪問雑感

高野 誠

高野 広美



紅葉も深まり晩秋の色濃い令和6年12月5日(木)、長女(心春・5歳)、姪(石山紗花・20歳)とともにぐんま日独協会の一員として東京のドイツ大使館を訪問する機会を得ました。

最寄りの東京メトロ・広尾駅に着き、大使館へ向かう道すがら、ふと道ばたにある「南部坂」の標柱が目にとまりました。「南部坂かぁ・・・」、ひと昔前によく放映されていた「忠臣蔵」のワンシーンが目に浮かびました。「雪の南部坂」です。討ち入りの直前、大内内蔵助が亡き主君、浅野内匠頭の未亡人(瑤泉院)のもとを訪ねます。本来であれば四十七士の連判状を示し、討ち入りの決意を示したいところですが、敵方の間者が潜入していることを悟った内蔵助は、討ち入り完遂のため瑤泉院に敢えてその決意を秘した上、「他国の大名に召し抱えられることになりました。もうお目にかかることはありませんまい。赴任地の旅日記を持参しました。」と間者を欺く虚言を弄します。「忠義の心も忘れたか。情けない。」と激怒し、内蔵助に罵詈雑言を浴びせて席を立つ瑤泉院、それに対し黙って辞去する内蔵助。雪の降りしきる中、今生の別れを背中中で伝えて坂道を下って行く・・・後刻、内蔵助が残っていた旅日記を開封すると、それは討ち入りの四十七士の連判状、己の短慮を深く悔やむ瑤泉院・・・日本史上、あまりにも有名な一大事件の主要舞台である南部坂、浅野内匠頭の屋敷跡かその極めて近くに今はドイツ大使館が建っているのか。それにしても赤穂浪士の討ち入り、桜田門外の変、2・26事件など日本史上に残る大事件の際は全て雪なんだよなぁ。東京で雪が降ることなんて滅多にないのに・・・などと、しばし感慨に耽りました。

大使館に隣接する「有栖川宮記念公園」で長女と遊んだ後、いよいよドイツ大使館訪問です。入口ゲートで身分証の確認など厳しいチェックが行われるものと思っていましたが、提示することもなく、意外と簡単に入館でき、大使館とぐんま日独協会との信頼関係を感じました。

大使館内に入ると日本の小・中学生が応募した「わたしのドイツ」をテーマにした絵画が数多く展示されていました。故・對馬良一さん(ぐんま日独協会名誉理事)が最後まで熱心に応募を呼びかけていたことが思い出され、それが今なおしっかりと受け継がれていることを大変ありがたく感じました。

大使館側からは文化課長さんらが対応してくれ、スマホゲームが全盛の現代において、アナログであるボードゲームがドイツではどのような位置づけなのかなど、私たちのさまざまな質問に丁寧にお答えいただき、有意義なひとときを過ごすことができました。

お土産に「**Auswärtiges Amt**(外務省)」の文字とドイツの国章が記されたエコバッグが全員にプレゼントされました。

懇談中、日独首脳会談には必ず同席されるオステン通訳翻訳部長さんが顔を出され、鈴木会長を大使のお部屋へ案内される一幕もありました。

また、大使館から我がぐんま日独協会の岡博子さんに、日ごろの日独交流に尽力されていることに対する感謝の品が贈呈されました。ぐんま日独協会とドイツ大使館の強い絆を感じさせられました。

懇談後は、暖かい日差しの中、大使公邸の前庭を散策、ゲーテの詩の一節、「**DIE TÖNE VERHALLEN, ABER DIE HARMONIE BLEIBT**（鐘の音は消えてしまうが、ハーモニーは残る）」が刻まれた日独友好親善之鐘も目にすることができ、最後に全員で記念写真を撮りました。



大使館訪問後は、六本木ヒルズで開催されていたドイツクリスマスマーケットでカツレツ、ソーセージ、ザウークラウト、グリューヴァインなどを堪能しました。本場でそれらを味わった身としては、紙コップに注がれたグリューヴァインは熱くて持ち運びに苦勞し、雰囲気のにさに少し閉口してしまいました。やはり本場で味わうのが一番です。

ともあれ、カナダ等に語学留学の経験がある姪も「初めてドイツ語の響きに触れて新鮮だった。日独交流に携わる方々から色々な話を聞くことができて刺激を受けた。」などと、うれしい感想を述べており、とても有意義な1日となりました。

ドイツ大使館訪問という、なかなか体験できない機会を作っていただきました鈴木会長ご夫妻、平方事務局長、岡博子さん、関係の皆様に対し心から感謝申し上げます。



3-3. 新年懇親会

瓜生郷子

2025年1月11日(土)14時から井野駅前の喫茶店「オリーブ」で懇親会を開催いたしました。この二日前にぐんま日独協会発足から貢献されてきた執行理事(事務局次長)杉本隆雄さんが逝去され、この集まりを開催するかどうかの協議となりました。でも亡くなられる前日に、私は杉本さん自身から「当日受付担当であるにも関わらず参加することができないことを申し訳なく思う」との連絡を受けておりました。そしてご家族からも大好きだったぐんま日独協会の行事開催への要望もいただいていたので、受付にお写真を置いて杉本さんを偲びながら、新年会と言わず懇親会とすることに決めました。会の冒頭では鈴木会長からのお声がけて黙祷を捧げました。



この懇親会はドイツ人との交流、そして会員同士の交流を軸に企画し、高崎経済大学留学生2名、ワーキングホリデーで来日し群馬県で仕事をしている2名、4月のドイツサロンに参加して下さった高山フロリアンさん、計5名のドイツ人の参加となりました。そして、高崎市出身でスイス在住のヘス明美さんも交流のお手伝いをして下さり、参加者は25名となる盛会でした。

はじめに日本語が流暢でナビゲーターをお願いした高山さんから自己紹介、引き続きドイツ語と日本語を交えての参加ドイツ人たちへのインタビューがありました。次に4つに分かれて座っていた各テーブルを、ドイツ人が順に回って色々お話ししました。ドイツ人もカタコトの日本語で一生懸命に話し、日本人もいろいろな方法でコミュニケーションを取りながら、和気あいあいな雰囲気情報交換、懇親会は盛り上がりしました。



喫茶店 オリーブ café de musique OLIVE

4. ChatGPT などの AI 利用の勧めと落とし穴

—— 情報工学と科学史の視点から 3

長井 宏之

A 世上を賑わす AI、やはり AI は素晴らしい!! 今回がいよいよ最終回となります。AI 世界での思考・試行・実践を目指すべく、最後にまとめました。

関心や背景・人生経験などに応じたプランが考えられます。以下には**目標や経験・分野**に応じた段階（縦の段）と、**時間・空間・関心**に応じた階層（横の段）で $3 \times 4 = 12$ の欄に便宜的に分けてみました。初中上の級別は左端の列の関心度によるのであって能力ではありません。

目的・経験・分野別 時間・空間・関心別 のお勧めプラン

	関心の 方向→	文明史観 哲学 歴史 大局観	科学史 技術史	現代社会 世相	個人的生活 メリット
	年代幅→	数万年過去～未来	200年 20年 1年	1年 1か月 今	今 1年後
関心↓	学問領域→	人類史 文明史	近代科学・技術史	社会情勢	個人的生活
まずは 知りたい →	初 級	A —	B —	C 書店・図書館 この記事（以前の号を含む）	D 書店・図書館 この記事
適度な 自己判断で→	中 級	E —	F 書店・図書館 ネットサーフィン YouTube	G この記事（以前の号を含む）	H 書店・図書館
自力で 推進可能 →	上 級	I 書店・図書館 ネットサーフィン YouTube	J 書店・図書館 ネットサーフィン YouTube	K 書店・図書館 ネットサーフィン YouTube	L AI をイン ストール 日常使用
興味・ 関心→	想定する対 象読者	読者個人の背景による	理工系の訓練を受けた方 関心ある方	大多数の方	個人として 体験したい方
—	想定する分野	文系・理系とも可	理工系主体	文系理系不問	文系理系不問

○ここでは理工系以外を包括して便宜的に文系という表現にしてあります。芸術系・体育系なども含みます。

A 【各欄に共通するご案内】

- A、E、I の欄では、書店や図書館は中規模以上のところが見つけやすいです。総論・概論などの棚が適します。
- 書店・図書館 とありますが、上記の関心・学問領域の区分欄に応じてその具体的な内容は互いに異なります。
- ネットサーフィンは、インターネットで興味関心に応じて次から次へと検索の連鎖をしていくことです。
- YouTube には多数の AI 記事や実践例・解説があります。ネットサーフィンと合わせて視聴をお勧めします。
- B、F、J の欄では主に理工系の書棚が適します。それ以外の欄の方にはパソコンコーナーなどが適します。

B 【各欄に個別のまとめ：お誘い】 上表の欄毎にご案内を記しました。

A：特別にAIに関心のある方、向けです。他の欄を御覧になり、ヒントを得て下さい。

B: 特別にAIに関心のある方、向けです。他の欄を御覧になり、ヒントを得て下さい。

C: この連載の前号・前々号をご覧下さい。特に各号の社会問題を紹介した部分が参考になります。

D: どこの書店・図書館でも大抵は関連書があると思います。手近なものをまず1冊読んでから他もあたります。

E: 特別にAIに関心のある方、向けです。他の欄を御覧になり、ヒントを得て下さい。

F: 科学・技術の専門書が並ぶ辺りの書棚です。科学・技術書はあまり売れないのか、展示・在庫が少ないようです。

情報系・電気電子系の棚にAI理解に役立つ本が多いですが、時には技術論や科学史・文明論などがあります。

G: この連載記事をご覧下さい。特に各号（前号、前々号）のAIによる社会問題を紹介した部分が参考になります。

H: お近くの書店・図書館で関連書を探して、手近なものをまず1冊読んで概要を把握してから他もあたります。

I: ここは、既にご自身でも高い哲学的・思想的な認識をお持ちの方が多数いる欄でしょう。外国の学者・論者が書いた本の翻訳に良書と定評のあるものが目立ちます【※1】（広告が派手なだけ?）。文明論や人類愛を軸にして

大悲観論から大楽観論まで壮大なロマンもあります。AIはそれらの中でどう位置づくか、考察の場が得られます。

J: 科学・技術の専門書が並ぶ辺りの書棚です。科学・技術の専門書はあまり人気が無いのか、展示・在庫が少ないようです。AIについては情報系・電気電子系の棚に役立つ本が多いですが、時には技術論や科学史・文明論などがあります。本格的に読むためには、専門書コーナーに行きます。大都市の大型書店には外国本の翻訳本もあるでしょう【※1】。

K: 最近のテレビ、新聞などで話題になっている社会問題にAIが絡んでいるケースが頻発しています。世界的規模の国家間情報操作、国内での偽情報被害、身近な会社や個人での悪質情報被害など、今後さらにAIをフル活用した高度な問題被害が急増するでしょう。このK欄に該当する方は個人的な関心以外にも社会的なお立場でご見識を発揮していただくべく、一層の情報の吸収を期待したいところです。AI関連のニュースを目ざとく見つけて書物にネットに、とご活躍下さい。

L: 気に入るようなAIをご自分のパソコンにインストールしていろいろと実用に使ってみるとよいレベルでしょう。

もう既に実行している方も多いかと思います。主に文字主体で応答するものと、画像の生成加工を主体とするものがあり、いずれも今すぐの段階では多少マニアックなレベルといえます。

C 【具体的な内容についてのご案内:初級】 他の級の方々は、ここは省略して下さい。

○ AI は、Artificial (人工の)・Intelligence (知性) の略称です。人間の知能を模倣したコンピュータシステム（コンピュータ機械とソフトウェアの組み合わせなど）のことです。勿論外見が人間に似ている必要もありません。AIロボットであっても身体部分を無視してその内部の頭脳のような部分がAIだと思えばよいでしょう。また、“AI”として売買されているものは商品としてのソフトウェアだと思えば大略よいでしょう。

○ あたかも人間が行う高度な推論や問題解決などを行っているかのように見せかけるための仕掛け・テクニック・プログラムなどが AI の特徴です。将棋や囲碁でAIが人間に勝った、などといわれます。2024年のノーベル賞の物理学賞と化学賞では AI の高度利用の成果から、人間ではなく AI が受賞したとさえいわれています。

○ ニュースなどで、“AIが、、、”というときは、“新型モデルの高性能パソコンで、、、”くらいに思えばよいです。過度に驚いたり有難がったりする必要もありません。AIという語は昔の“人工知能”とほぼ同じです。狭義には、人工知能はAIが登場する以前の古いことに多い傾向もありますが、広義には両者は現状ではほぼ同じ概念です。

○ 実は語としては逆に、人工知能がAIを含みます。車（人工知能）という概念の中に多種多様な車、車輪（多様な方式）がある。その中で最近は自動車（ディープラーニング方式）一派がクルマ（AI）という名前で急速に勢力を伸ば

してきた、という感じです。クルマという名前で母屋の車輪を乗っ取りました。AIは人工知能の名前を乗っ取りました。ケイタイ(電話)も携帯(持ち運び一般、が原義)の名前を乗っ取りました。

- 人工知能には様々な方式・原理が考えられます。現今のAIはそれらのうちの、とある方式のもの(ディープラーニングなど)が主流であり、将来はまた別の原理に立つものが当然出て来ます。
- 現在でのAI仕掛けは、コンピュータに予め大量のデータを学習させることで、あたかも人間が行う推論や問題解決などを行っているかのように見せることができるのです。人の話し声を自動的に文章に書き起こし、外国語の文章を翻訳し、外国人との会話を日本語で通訳し、画像認識機能により指紋や顔で本人を認識する、車が公道を自動運転する、など、さまざまな分野でAIは活用されています。今やAIはどの電子機器にも入っている、といえます。

D 【具体的な内容についてのご案内:中級】 他の級の方々は、ここは省略して下さい。

- 読者の多数の方々がここに該当するのではないのでしょうか。AIを体験したい、と思うが何からどのようにすればよいのか、よく分からん。何か不都合が生じたらどうしようか。カネがかかるとは困る、等々。

そのような場合、まずは書物がうってつけです。書店に行ってそれらしい棚の本を手に取り、暫くあれこれと立ち読みしましょう。そして一冊購入し、読んで知恵をつければよいのです。更に一步踏み出してパソコンの前で本を片手に何かを、例えば ChatGPT でも試せば、もうチョットしたもの、といえるでしょう。一気に AI の知識が増えること、請け合いです。

- そこまでの勇氣は無い、設定などがやはり面倒だ、という方は、疑似体験をしまくりましょう。google などの検索機能をフル活用し、次から次へと関連する単語をクリックし、興味関心の赴くところ、開いて見れば OK です。

さながら、海浜の波を次から次へと乗り移るサーファーになった気分です。ネットサーフィンと言われる所以です。気が付くとまるで無関係なテーマのページを開いていた、時間の無駄をした、となりがちです。YouTube も同様な時間浪費に陥りやすいです。そんな時、たまにはドイツ語のページを開くのは如何でしょうか? 【Deutschland wiki】 などと入力し、その後は画面を見て適当にクリック。時々【Youtube ドイツ語】などとするのも良いです。

ドイツ語学習も出来るのではまさに、**Zwei Fliegen mit einer Klappe schlagen**。ハエたたき一発で2匹のハエを打つ、ドイツのことわざの通り、**一石二鳥** ですから。

- 中級ではこうして只管見て、見まくることに尽きます。

E 【具体的な内容についてのご案内:上級】 他の級の方々は、ここは省略して下さい。

- 上級に居る方・目指す方は、AI をご自分のパソコンに導入するのは不可避でしょう。操作もすぐに／既に マスターできるでしょうから、もう私のご案内できるものは無いでしょう。(私が教わりたくらいで)。

ここではネットサーフィンも YouTube も必要無く、Zen・禅の偉人道元を真似てただ「只管打読」:文明史観、SF、科学史、数学史、歴史哲学、人類史、民族興亡史などの書を読破していくのがお勧めです。【※1】

- 日独関係の方々は皆さん、とても深い／高い 背景や専門、経歴をお持ちで、それを見せずに爪を隠してヒソソリしていることが多く、戸惑われるばかりです。でももしも、科学・技術史(現代にはこれらが不可避ゆえ)・科学思想・悠久の文明史観などで手薄なものがあれば、これらに親しむことを強くお勧めします。ご自分の専門の他にこれらを持てば、昨今の AI の盛り上がりにも決して左右されず、確固たる自己の確立を図れるでしょう。余人をもって代えがたい存在として世の中に迎えられ、自身も納得のいく人生を歩むことでしょう。AI にどのように対処するか、などは些末な応用問題だ、として自ずから善き対応ができるものです。ココロとアタマ、精神のセレブになる道です。

F またもや危険性を強調 !!! 鳥の目で大局観に依って論ずる

○ 光あるところに影もある【※2】。Wo Licht ist, ist auch Schatten こんなに素晴らしい AI の急速な登場・発展は影もまた生み出した。文明論・SF 空想科学小説・哲学小説・ユートピア幻想などから昨今の AI の行く末を考察するのの一興である。実のところ、個人としても、組織としても、国家としても、そして人類全体としても巨大生成物 AI への上手な対処法を身に着けないうちに、AI は勝手に一人歩きし始めているのである。

経済界の「見えざる手 Invisible Hand」／Adam Smith (英国の経済学者) の如く、情報優位世界の見えざる手に導かれて早晚人間の手に負えない世界に突入するであろう。その先は人類の滅亡である。第一に人間の仕業のせいで、第二に AI の仕業のせいで、である。

○ 第一とは、AI の悪用・誤用によってさながら原爆の使用にも似た事件が生起し、人類が破滅に向かう危機である。第二とは、突然に自律に目覚めた AI が、自立を企んで人類文化や人類を滅亡させる、という危機である。

AI をくい止める方法が無いうちに AI が目覚めれば、その時点で人類は後手に回っているので打つ手は無い。一人でも多く大局観に立ち、一日でも早く AI を御す。成功して豊かな暮らしの人類繁栄を願おうではないか。

G 更なる危険性を強調 !!! 今度は 虫の目で身近な現実依って論ずる

○ せっかく格調高く原稿を終わらせたかに見えたがやはり世間は甘く無かった。またしても書き終えた途端に書直しを迫られた。8度目である。悠久の人類史などの入り込む余地の無い、AI 社会の現実の戦慄に遭遇したせいである。

○ 今回もNHKの「クローズアップ現代」である。筆者の作り話ではないことをネットで検証してほしいからである。

中学生が卒業アルバムを悪用?! 身近に迫る“AI 生成ポルノ”

初回放送日：2024 年 12 月 18 日

(上記のタイトル名でネット検索できる。実際の番組ではもっと過激露骨な表現がされている)

「全く身に覚えのない自分の裸の写真が知らない間に拡散している・・・いまそんな被害が急速に広がっている。AI 技術によって作られる「ディープフェイク・ポルノ」。ネット上には顔写真一枚から性的な画像や動画を作ると言うサービスがあふれ、中学生が卒業アルバムの写真を悪用していると見られるケースも見つかった。誰もが被害者になりかねない深刻な事態・・・。」

それら偽の全裸合成画像は AI の作品で、人間の目には合成とは判別できないほど精巧だともいう。

これによれば思考実験が可能だ：ある日、中・高校の放課後教室で男女の生徒が談笑している。男子生徒は時々スマホを覗いてメールをチェック、と思いきや、画面には目の前の女生徒の“裸体画像”が表示されている、という図式である。想像してみよう、そうとは露知らぬ女生徒が実は自分(読者)の妹であり、娘であるとしたら、と。

大人で言えば我が妻であり恋人であり、同僚であるという場面を。或いはその女性が読者自身であったら、と。こんな現状に、日本には直ちに取締まる罰則が無いとも番組は伝えている。(韓国では同意なく製作や拡散すると7年以下の懲役または530万円(円換算で)の罰金を科す。大抵の諸外国には罰則がある。)

AI は素晴らしい。今後更に発展・高度化する。人類の悠久の未来を信じて、まずはパソコンに AI を入れてみよう。

【※1】例えば『サピエンス全史 文明の構造と人類の幸福』ユヴァル・ノア・ハラリ、『銃・病原菌・鉄』ジャレド ダイアモンド。天体写真集『138 億光年 宇宙の旅』渡部・岡本、『2001 年宇宙の旅』A・C・クラーク[Blu-ray]書籍、等が目から鱗でお勧め。

【※2】「光あるところに影もある。まこと栄光の陰には数知れぬ忍者の姿があった。命を懸けて歴史を作った陰の男たち。だが人よ、名を問うなかれ、闇に生まれ闇に消える、それが忍者の定めなのだ。」傑作忍者アニメ「サスケ」の冒頭。1968 年～。懐かしい!

5. 日本百名山 独訳 – 連載 14

深田勝弥 会員

63 蓼科山 (2530 米) *Tateshina-yama* (2530 Meter)

63-01

古い本によると、浅間山を北岳、蓼科^{たてしな}山を南岳と呼んで、この二山を東信州の名山としている。両方とも円錐形の格好のいい山だから、昔の人の好尚にかなったのであろう。中山道を下って北佐久の岩村田あたりまで来ると、千曲川の谷を指しはさんで、相対立したこの二つの山が旅人の眼を引くのである。

Nach einem alten Buch, war man damals den Berg *Asama-yama* (43) *Kita-dake* und *Tateshina-yama Minami-dake* genannt. Man hielt diese Beide für die schönen Berge in östlichen *Shinshu*. Weil sie so schön konisch sind, waren sie wohl von den alten Einwohnern beliebt. Ein Reisender auf der Straße *Nakasendoh* abgegangen, und in der Nähe *Iwa-murata* in *Kita-saku* angekommen, fallen diese zwei Berge, die auf jeder Seite des Flusses *Chikuma* gegeneinander stehen, dem Reisenden ins Auge.



63-02

蓼科山は俗に北ハツと称せられる連嶺の一番北の端に、一きわ抜きんでている峰で、その余威は更に北に向かって、次第に高さを落としながら広大な裾野となる。しかしそれは赤城山のようにスムーズな美しい線ではなく、いくらか不整形なので人々の眼にはただその円頂のみにそそがれる。この円頂はどこから望んでも端正な形を崩さず、蓼科山が名山として讃えられたゆえんも、ここにあるのだろう。

Der *Tateshina-yama* ragt am höchsten und nördlichsten Ende von der Gipfelkette, genannt „*Kita-yatsu*“. Noch nach Norden langsam niedriger sich ziehend, verwandelt sich der in den weiten Bergfuß. Weil sein Grat nicht so schöner als *Akagi-yama* (40), und unregelmäßig, achtet man leicht nur auf seine Kuppe für gut. Da diese Kuppe von überallher zu sehen ist, ist es wohl der Grund, dass man seine ordentliche Gestalt für schönen Berg lobte.

63-03

名山であるから古くからいろいろな呼び名がある。昔は立科と書かれた。諏訪から望むと、完全な円錐形をしているので、諏訪富士とも呼ばれた。蓼科山は円錐形上に更に円錐を頂いた複火山であって、

富士に模されるのは実はこの円錐丘である。この円錐丘はなかなか傾斜が急峻で、山頂に近い所では三十二度もある。少し下がっても二十八度を示している。

Da er berühmt ist, hat er schon lange verschiedene Namen. Früher wurde er mit den chinesischen Schriftzeichen „立科“ geschrieben. Von *Suwa* zu ihm geblickt, ist er ganz konisch, daher ist er *Suwa-fuji* genannt. *Tateshina* ist der Doppelvulkan, der ein Kegel noch auf anderen steht, deshalb wird er mit *Fuji-san* (72) verglichen. Dieser Kegelberg ist ziemlich steil, auf der Nähe des Gipfels ein Winkel von 32 Grad, ein wenig hinabgegangen ist, ist, es 28 Grad.

63-04

草枯丘いくつも越えて来つれども蓼科山はなほ丘の上にあり
と歌った島木赤彦の見たのもこの円錐丘であった。諏訪に住んだ赤彦には蓼科山は親しい山であった。「枯草丘いくつも越えて」という描写は、蓼科南側の、いま蓼科高原と呼ばれている地勢を指すものであって、この方面から眺めた蓼科山が最も姿がいい。

Die viele Hügel,
vom welken Gras überschritt'n
bin ich hier angekomm'n.
doch ragt fern *Tateshina*
noch höher als andere.

Der Berg, den *Shimaki Akahiko* gesehen hat, war auch der Kegelförmiger. Da er in *Suwa* lange gewohnt hatte, war er intim mit *Tateshina*. Seine Beschreibung „Die viele Hügel mit welken Gras“ zeigt das Gelände *Tateshina-kohgen* (-Hochland) genannt ist, in der südlichen Seite von *Tateshina*. Von hier zu ihm geblickt, ist man am schönsten *Tateshina* zu sehen.

63-05

島木赤彦に誘われて、『アララギ』の歌人たちは蓼科高原を訪れて、秀れた多くの歌を残した。

信濃には 八十^{やそ}の高山ありといえど女の神山の蓼科われは 伊藤左千夫
蓼科はかなしき山と思^{おも}ひつつ松原なかに入りて来にけり 斎藤茂吉

中でも左千夫の絶唱であるところの、

さびしさの極みに堪えて 天地^{あめつち}に寄する命思ふ

は、やはりこの高原にあっての感動であった。それから四年経て、左千夫は東京の陋巷^{ろうちやう}で死んだ。彼の眼底には時折蓼科の「天^{あめ}の花原^{はなはら}」が去来したことであろう。

Von *Shimaki Akahiko* verlockt, hatten die Dichter in literarischen Zirkel „*Araragi*“ das Hochland *Tateshina* besucht und hatten sie vielen exzellenten „*Tanka*“ geschrieben.

Obwohl Schinano
viele Berge haben soll,
ziehe ich den Berg
Tateshina ander'm vor,
denn er ist Berg er Göttin.

Itoh Sachio

Von Tateshina
mich angezogen fühlend,
bin ich unbewusst
in dem tiefen Kieferwald
schon hineingekommen.

Saitoh Mokichi

Vor allem das letzte *Tanka* von *Sachio*.

Die Höchstgrenze
der Einsamkeit ertragend,
sinne ich lange
über das Leben, wie viel
von dem Kosmos abhängig.

Ito Sachio

Diese *Tanka* auch war seine Rührung in dem Hochland. Aber er war nach vier Jahren in Elendsviertel in Tokyo gestorben. Die Blumenwiesen mag manchmal vor Augen ihm geschwebt sein.

63-06

飯盛山と別称されたのも、円錐丘の形から来たものである。高い山と呼ばれたのは、高井は鷹居で、鷹が住んでいたからであろう。そう言えばやはり古い本に「山中には雷鳥・雷獣など棲みて、夏時雷雨の起こるや出没奔飛す」と書いてある。蓼科山は鬱蒼とした深い森林に包まれている。鳥獣にとっては格好な住所であろう。

Sein anderer Name I-imori-yama stammt ist auch aus seiner konischen Form. Und *Takai-yama* stammt auch aus *Takai*. Die Falken wohnten damals wohl dort. In alten Buch steht, dass „*Raichoh*“ (Schneehuhn) und „*Raijuh*“ (Schneetier) in diesem Berg wohnten, und sie beim Donnerschlag auftauchten. *Tateshina* ist tief im Wald gehüllt. Für Vögel und Tiere mögen hier gute Wohnung sind..

63-07

『三代実録』に、陽成天皇元慶二年（八七七年）叙位のことが出ているから、大昔から尊崇された山で、登山者も多かった。

Es steht im alten Dokument „*Sandai Jitsuroku*“, dass der Berg von Kaiser *Yoseh* 877 im Rang erhöht wurde, deshalb war er damals geehrter Berg und viele Leute ihn bestiegen hatten.

63-08

もう三十年も前、秋の初め私は一人で大門峠から蓼科牧場へ行き、そこの牧場事務所で泊めてもらい、翌朝頂上へ向かった。蓼科高原という名は山の南の諏訪側に附せられているが、高原という感じはむしろ北の北佐久側の方にふさわしい。こちらは実に広大な裾を引いていて、その中に、協和牧場、蓼科牧場、赤沼平、御泉水などの、高原らしい風景が随所に拡がっている。

Schon vor 30 Jahren war ich von Pass *Daimon* zur Weide *Tateshina* gegangen, und hier im Weidebüro übernachtet, bin ich am nächsten Morgen auf den Gipfel abgereist. Obwohl der Name „*Tateshina*“ aus der Seite des *Suwas* genannt ist, doch passender *aus der nördliche Seite Kitasaku*. Diese Seite hat großen Fuß. Darin zerstreuen sich hier und dort Weiden namens *Kyowa*, *Tateshina*, *Akanuma-taira* und *Gosensui*, die passenden zu der Landschaft der Hochebene sind

63-09

牧場といっても、畜舎があつたり、乳をしばったりする牧場ではなく、近年のお百姓が牛や馬を預けに来て、この高原に放し飼いされるのである。彼等は日頃の鼻輪や手綱を取りはずされて、一夏を悠々と大自然の中に暮らす。その間に本然の野性を取りもどすのか、秋に連れた帰る時には、いくらか気性が粗暴になるそうである。

Die Weide ist gesagt hier, doch kein Stall, kein Ort zu melken, sondern der Ort, wo das Vieh hier weidet. Ohne Zügel usw. verbringt das Vieh ruhig in der Natur den ganzen Sommer. Das gewinnt vielleicht wieder die Wildheit, soll das bei der Rückkehr etwas temperamentvoller werden.

63-10

牧場事務所からの登山道は、御泉水を通過すると、原始林の中を真っすぐ頂上を目指して通じていた。急峻な代わりにドンドン高くなって、やがて尾根に出る。特徴のある円錐丘はそこから上である。森林が尽きて、大きな岩が累々と散乱しているところを攀じ登ると、頂上的一端に取りつく。

Der Bergpfad führt aus Weidebüro durch „*Gosen-sui*“, gerade steil und hoch, zum Gipfel. Auf dem Pfad hinaufgestiegen, komme ich bald auf dem Grat. Die kennzeichnende Bergkuppe ist dort oben. Durch den Wald und die zerstreuten großen Felsen geklettert,

erreichte ich einen Teil des Gipfels.

63-11

頂上は一風変わっている。大きな石がゴロゴロころがっているだけの円形の広地で、中央に石の祠が一つあるきり。(現在は小屋が出来たそうである。)秋風に吹かれながら、石ばかりの頂上で私は一時間余り孤独を味わった。帰りは反対側の諏訪側におりた。円錐丘を下って森林帯に入り、そこからただひたすら下り一方の道で、やがて蓼科高原の^{しんゆ}新湯温泉へ出た。

Auf dem Gipfel ist es etwas eigenartig. Er ist runder Platz, wo nur viele Steine umherliegend, und steht allein ein kleiner Schrein in der Mitte. Ich genieße meine Einsamkeit über eine Stunde im Herbstwind. Bei Rückkehr bin ich zur Gegenseite des *Suwas* gegangen. Von dem konischen Hügel durch den Wald abgestiegen, bin ich der Therme „Sin-yu“ auf der Ebene „*Tateshina*“ angekommen.

18. Januar 2025

※ 事務局註: 深田勝弥会員は、作家故深田久弥氏の甥という関係から名著「日本百名山」の独訳に挑戦されました。

北海道から南下しながら掲載しますが、百座を網羅する時間とスペースがないため一定地域に偏らないように選択しながら進めておりました。62 号で一旦、完と区切りを付けましたが、もう少し続けていただけることとなりました。

なお、深田会員が5年かけてドイツ語版を完成させた経緯が、故深田久弥氏の地元の北国新聞(2020年10月25日付)や、上毛新聞(2020年11月18日付)、朝日新聞(2020年1月17日)に紹介されました。

初版刊行以後、電子書籍での発行を薦められておりましたが、昨年には「日本百名山」の詩と表題がつけられて電子書籍でも発行されました。

なお、電子書籍での発行につきまして産経新聞(2023年11月19日)に紹介されました。

ぐんま日独協会事務局に深田会員から頂きました「山の詞華集」がございます。

貸し出しもできます。貸し出しご希望の方は事務局へご連絡ください。

6. 私の遠く過ぎ去った時代とドイツ(その3)

笠原浩一郎

仙台の銀座とも云える東一番町のはずれに、かつて、古びて薄汚れた映画館がありました。所謂(いわゆる)名画座で、東北劇場と言う名でしたが、東北大生には大変親しまれており、仲間の間では“トンペイ劇場”と愛称で呼ばれていました。今回は私の古い記憶のなかでも、ここで上映されていた鮮烈で清々しい二本のドイツ映画について記しましょう。



「未完成交響楽」と「会議は踊る」です。共にナチスが政権を取る直前の、短いながらも自由主義の風潮があった時期、“奇跡のドイツ映画黄金期”と呼ばれた時代の作品です。

じつは「未完成交響楽」は1933年オーストリア映画であり、原題は **Leise flehen meine Lieder** 「秘めやかに流れる我が調べ」ですが、日本語の題名「未完成交響楽」はそのものずばりで、こちらの方が内容にぴったりです。

画面は、ウィーンのステファン大聖堂を描いた絵画がゆらゆらと揺れて(実はそれは質屋へ運ぶ人の後ろ姿の映像でした)、シェンブルンと云う屋号の質屋に運ばれてゆきます、受付で品物の値踏みを担当するのは質屋の娘カロリーネ、次の客がシューベルト、質屋の中からすりガラスに映るその影は、当に、私がベルリンのお土産屋でよく見かけた石膏で出

来たシューベルトのレリーフそのもの、これでウィーンが舞台であることを示す見事な導入部です。

貧しく控えて、誠実そうなシューベルトに好意を抱いた質屋の娘エミーは、彼が持参したギターを法外な値段で引き取ります。一方、小学校の助教であるシューベルトは算数の時間に掛け算を教えながら、突如として浮かんだ楽想を黒板に、数字から音符へと書き変えていきます。(私はこの場面で、数字が生きたドイツ語で話されるのを初めて体験し、嬉しかったものです) 職を失ったシューベルトにチャンスが到来します。エミーの好意で、質に入っている上等な服装を持ち出し、それで身を固め(質札の付いたまま)侯爵夫人の音楽サロンに招かれて、口単調交響楽を演奏します。演奏途中で事件が起こります。若い令嬢が隣の士官から冗談を耳打ちされ、大声で笑い出してしまうのです。勿論、誇りを傷つけられたシューベルトは、その場で第二楽章の演奏を中断してしまいます。

その後、思いがけなくハンガリーの侯爵から娘の音楽教師を依頼されますが、実は娘とは、あの演奏中、笑って中断させたその人、カロリーネで、無礼を詫びるために彼を呼んだのでした。二人は恋仲になりますが、厳然たる社会のヒエラルキーに阻まれ、シューベルトが再度ハンガリーに招かれたときは、カロリーネとかの貴族士官との結婚式の日でした。シューベルトは婚禮のお祝に、再び、完成された口単調交響楽を演奏しますが、以前、演奏途中で中断したところで、カロリーネが心の痛みから失神してしまい、又しても演奏は中断です。シューベルトはその後の楽譜を破り捨て、その余白に記したのは、

Wie meine Liebe nie zu Ende gehen wird, so soll auch diese Musik nie zu Ende.

「わが恋の終わらざる如く、この曲もまた終わらざるべし」

この言葉は多くの青春の心をとらえ、私も折に触れて口遊(くちずさ)んだものです。

シューベルトの実像は、群馬県館林出身の作家でノンフィクション作家でもある塚本哲也氏が「シューベルト・心の旅路「未完成交響曲」と題して、克明に記載しております。尊敬するベートーベンとのやり取りなど興味深く、大事な部分がありますが、あくまでも映画「未完成交響楽」は、未完の謎にシューベルトの恋とを絡めた巧みなフィクションであります。各所にウィーンフィルの演奏やウィーン少年合唱団の歌声が流れて、音楽映画の嚆矢でもあり、誰にでも愛される傑作になっています。

二本目の「会議は踊る」(Der Kongreß tanz)は1931年ドイツで作られた映画です。

1814年のウィーン会議が背景になっており、ナポレオン失脚後のヨーロッパを、主催者メッテルニッヒ宰相は、権謀術策を用いて自分の意のままにしようとするストーリー、かたや、ロシア皇帝アレキサンドル一世と手袋屋の娘クリステルとの恋物語りが絡み合う構成になっております。

ヨーロッパ諸国の首脳が馬車が行列して来る中、クリステルは観客席から「ウィーンで最高の手袋は牛飼いの娘のマークの当店で!」と広告付きの花束を投げつけます。それがロシア皇帝にあたり、爆弾騒ぎとなって、クリステルは逮捕されてしまいます。しかし、皇帝の恩赦の働きかけがきっかけで二人は親しくなり、後日、皇帝はクリステルを別荘へ招待します。

圧巻は、迎える馬車の中で歌うクリステル(名優リリアン・ハーヴェイ)の **Das gibt's nur einmal** 「ただ一度だけ」、道ばたの多くの人々の祝福を受けながら、恰(あたか)もお伽噺のお姫様になったような光景、でも、それは儚(はかな)い二度とない夢であることを知りながら、哀切極まりなく歌うクリステル。

Das gibt's nur einmal, das kommt nicht wieder,

Das is zu schön, um wahr zu sein!

So wie ein Wunder fällt auf uns nieder von

Paradies ein gold'ner Schein!

Das gibt's nur einmal, das kommt nicht

wieder,

das ist vielleicht nur Träumerei!

Das kann das Leben nur einmal geben,

vielleicht ist's morgen schon vorbei!

Das kann das Leben nur einmal geben,denn

jeder Frühling hat nur einen Mai!

「これはただ一度だけ 二度とやってこない 素晴らし

すぎて信じられない

まるで奇跡のように 私達の上にふりそそぐ天国から

黄金の光が!

これはただ一度だけ 二度とやってこない

もしかするとただの夢!

人生にはこんなことは一度しか起こらない 明日には

もう 消えているかも

人生にはこんなことは 一度しか起こらない だって春に五月は一度だけだもの」



世の中は、素直で心優しい人達と、嫉妬や嫉み、悪意に満ちた人々の入り混じった集まりであると信じている私にとって、クリステルを取り巻くウィーンの人達全員の心の美しさには、只々感動しました。

さらに、我が国のこの **Das gibt's nur einmal**「ただ一度だけ」の異常なほどの人気は、識者によれば、同盟国ドイツの優位性、ドイツ語の普遍性によるものと分析しております。しかし、私個人は、この「ただ一度だけ」の受け取り方が、彼我で微かに違うと感じているのです。我々には仏教思想からの「無常」があり、無意識下で遠因になっているのだと思うのです。

仏教には夥しい難解な教義がある中で、広く暗唱されている般若心経（はんにゃしんぎょう）の“空”や“悟り”、曹洞禅の簡明な解説書「修証義」等が我々日本人の心に深く沈殿していて、確たる特別な“諦観”が生まれているのだと思います。これが支えとなり、**Das gibt's nur einmal**「ただ一度だけ」が本場ドイツよりも、日本においてより広く愛され、歌われているのではないのでしょうか？

どうぞ、二本とも、DVD が簡単に手に入りますので、大らかで詩情あふれるドイツ語の映画を楽しんで、出来れば、ご意見を頂ければ幸いです。（終わり）

.....Information.....



3月のドイツサロン開催の午前中から高崎に到着した東京日独協会の研修生エリザベトさんと共に少林山達磨寺を訪れた。少林山にある洗心亭はドイツ人建築家ブルーノ・タウトが1934年から数年間を過ごしたことのあ

る離れ家で、古い日本家屋の紹介として、サロンに出演してくださるドイツ人をよく案内している。タウトはナチスから社会主義的傾向のある建築家として目をつけられてドイツから亡命、日本インターナショナル建築会との縁でかねてから憧れていたこの地、日本にたどり着いている。仙台や東京を経て高崎の井上房一郎さんを紹介されて洗心亭に住まうようになる。ご紹介したいのは、去年の12月中旬にお寺の中の達磨堂にタウトに関する展示室が新設されて、作品や書画が拝見しやすく展示されていることである。そこにはタウトが何度も設計し直した思い入れのある緑の椅子、タウトが内装を設計し唯一現存する建築作品の熱海の日向亭から寄贈された赤い椅子、



タウトがこだわった日本ならではの素材を取り入れた竹製の電気スタンドなどが展示されている。この緑色の椅子は、作家横山秀夫が書いた「ノースライト」という小説で中核をなし、NHKでもドラマ化された。タウトが何度も設計変更を行なったというこの椅子には、強度の確認のために実験で折れた背もたれを支える支柱に修理の跡も見える。この椅子をしてみるのも、また徹底したドイツ人らしさを感じ、味があるのではないだろうか！



(K.U)

7. 新入会員紹介

ドイチェフリークになりたいくて

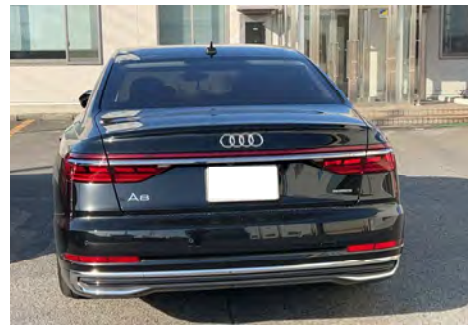
樽松 靖紘

会員の皆様、はじめまして。樽松と申します。鋼材の販売・加工の会社を営んでおります。
私とドイツの first contact は、大学で第 2 外国語をわけもわからずドイツ語を選択したのが初めてです。

アーベイツェーしか判りませんが…。

ドイチェはヨーロッパでトップの経済力、先進医療の国、お堅い人間性という一般的な知識しかありませんが今後皆様にご指導ご鞭撻していただき、ドイチェマニアになれるよう、また是非とも本国へ旅行・見学したいと思っていますので、色々なことをぐんま日独協会の皆様にレクチャーをお願い致します。

車は若いころから色々乗り継いできましたが、特にドイツ車はメルセデス・BMW・Audi 等、ドイツ車の素晴らしさは、メーカーごとに確固たる哲学が有るということでしょうか。先進的でも強剛性な頑丈さ、ここ 10 数年は Quattro (4 輪駆動) が安全性・安定感が抜群でいいですね (*'▽')//
是非とも皆様、仲良くしてください。ダンケシェン



ドイツの工芸品に魅せられて

増野 典子

前橋市にある、おもちゃと人形の専門店、黒田人形店でスタッフをしています増野典子と申します。
ぐんま日独協会へ入会させていただいたのを機に、ドイツに興味を持つようになったきっかけを改めて思い出してみると、ずいぶん以前に遡ることになりました。

もう 20 年近く前のことです。買い物でアーケード街を歩いているとき、一軒のお店のショーウィンドウに目を奪われました。そこには美しい木製の工芸品や可愛らしいお人形が並んでいました。木の模様や曲線が美しく繊細で、同時に力強い存在感を放つ木工飾りや、どこかユーモアのある表情のお人形や動物たちが、とても印象的でした。

ご縁あってその後そのお店のスタッフとなり、以前ショーウィンドウで見たほとんどのものがドイツ製であることを知り、ドイツへの興味や憧れが膨らんでいったのを覚えています。私は他県出身なのですが、山や森や湖などの自然、工房のクラフトマンシップ、音楽や美術が文化として根づいていることなど、群馬とドイツには共通点が多いのではないかと、いつも密かに思っています。



幸運にも、昨年末の大使館への訪問に参加させていただき、ドイツの雰囲気を感じ、ぐんま日独協会の皆さまのドイツへの深い思いにも触れることができ、感激いたしました。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

ワインを通じて、ドイツとの出会い

笹治 昂

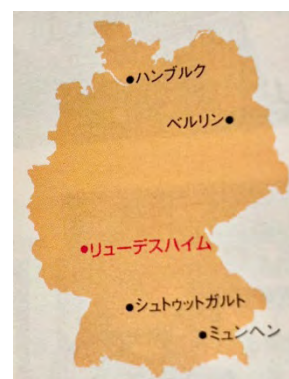
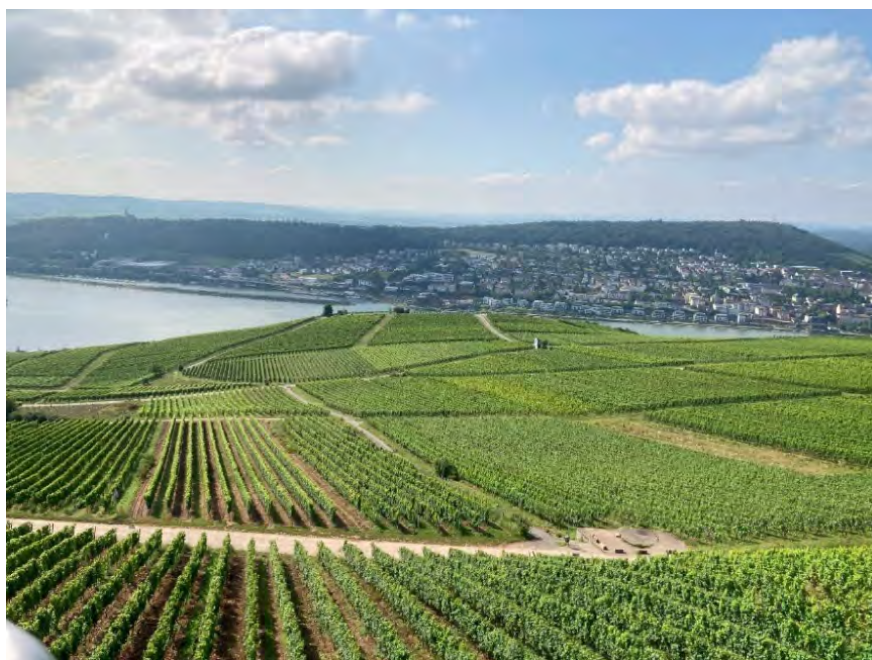
このたび、ぐんま日独協会に入会させていただくことになり、大変嬉しく思っております。

私が協会を知るきっかけとなったのは、小学校時代の恩師との偶然の再会でした。恩師がぐんま日独協会に関わっていることを知り、高校生まで群馬で過ごした私にとっても、ドイツとのつながりを深める良い機会になると感じました。

私は約 10 年前からドイツのリュースハイムという町で、ワイン専門店のスタッフとして働いています。リュースハイムは、ライン川沿いに広がる美しいワインの産地で、世界的にも知られる銘醸地です。私はワインの販売だけでなく、生産者の思いやこだわりを深く理解するため、ブドウ畑での作業にも携わっています。畑での仕事は決して楽ではありませんが、そこで得られる経験や、生産者との信頼関係が、私の仕事の大きな支えとなっています。

異国の地での生活は大変なことも多いですが、ワインを通じて多くの人々と出会い、文化や価値観を学ぶことができる日々は、非常に充実していて楽しいものです。また、日本ではドイツワインの試飲会イベントを開催したことがあり、その際にぐんま日独協会の皆様には多大なご支援をいただきました。心より感謝しております。

今後もぐんま日独協会を通じて、日本とドイツの架け橋となるような活動に関わることができれば嬉しく思います。どうぞよろしくお願いいたします。



8. お知らせあれこれ

ペトラ・ジグムント駐日ドイツ連邦共和国大使



Petra Sigmund

<Botschafterin der Bundesrepublik Deutschland>

前号でご紹介いたしましたように昨年夏に大使が代わられました。

ドイツの場合、大使は大統領の代理として各国に派遣されます。

昨年 10 月 28 日、ジグムント次期大使はシュタインマイヤー大統領から託された信任状を天皇陛下に捧呈されました。

東京駅貴賓室前玄関より馬車に乗られ、儀装馬車列で皇居へ向かわれました。道路は交通規制がかかり、高層ビルの間を通り抜けられました。その様子はとてもメルヘンテックだったとのことでした。

そして無事に信任状捧呈式を終えられ、晴れて特命全権大使になりました。また、大使車両にはこの時からドイツ国旗が付きました。

(馬車が通る / ドイツ大使館ネコの気まぐれブログより)



ジグムント大使には姉妹都市提携をしている沼田市や草津町をはじめ、タウトの住居のある高崎市少林山、そして四季折々の自然を満喫できる群馬県各地に、是非おいでいただきたいと願っております。

2024 年ドイツ大使館主催 絵画コンテスト「わたしのドイツ」の報告

いつもたくさんの応募をいただいております大使館主催の絵画コンテスト。2024 年もたくさんの児童・生徒のみなさんに応募いただきました。

テーマ： 「元気なドイツ」

応募点数： 小学校 94 点

中学校 82 点

参加校： 共愛学園小学校・共愛学園中学校

前橋市立第六中学校・新島学園中学校

2023 年の作品展を昨年 6 月行い(前橋中央公民館)大変好評でした。今年もうれしいことに作品展の開催を待ち望んでおられると聞いております。

(大使館関係担当 O)

9. 編集後記

2024 年度後期の行事では、講演会 11 月 4 日「現代に生きるグリム童話」と 12 月 5 日「ドイツ大使館訪問」という大きな行事が二つ重なり、忙しい年末を過ごしました。そして年が明けた 1 月には杉本隆雄事務局次長の逝去の知らせを受け、追悼の文章を掲載いたしました。

次号のハイマート 66 号では、新しい会長を迎えること、隔年実施の「第 10 回ドイツフェスティバル in ぐんま」の準備等の記事を中心にお届けしたいと考えております。

無事にこのハイマート 65 号をお届けすることが出来ますことは、偏に会員の皆様のご協力の賜物と感謝しております。来年度はさらにパワーアップした楽しい年となりますよう、ご援助をお願いする次第です。(A.H)

問い合わせ先・参照先

ホームページ (HomePage)

<https://www.jdg-gunma.jp>

フェイスブック (FaceBook)

<https://www.facebook.com/JDGGunma>

E-Mail

info@jd-gunma.jp

Tel・Fax 027-288-4297 (鈴木方)

QR コード



ホームページ



フェイスブック

☆雑学トピック☆ ドイツ各州のワッペン(北の州から順に紹介していきます)



Freie Hansestadt Bremen
フライエ・ハンゼシュタット・ブレーメン
Bremen ブレーメン



Brandenburg
ブランデンブルグ
Potsdam ポツダム



Berlin
ベルリン
Berlin ベルリン